TECHNICAL DATA

仕上げの種類	水系エポキシ樹脂サーフェーサー(水系白色タイプ)
製品名	水系バリアエポ

第 7 版　　作成日：　2013 年 12 月 05 日

菊水化学工業株式会社

標 準 施 工 仕 様 書

● 仕上げの種類　：　水系エポキシ樹脂サーフェーサー（水系白色タイプ）
● 素　　地　：　コンクリート・セメントモルタル　等
● 部　　位　：　内外部壁面
● 用　　途　：　① 有機系仕上塗材全般の下塗り
② コンクリート・モルタル・押出成形セメント板の下塗り
③ 改装工事の下塗り
● 工　　程

新規下地

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間(23°C)	所要量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。				
下 塗 り	水系バリアエポ 基　材：4kg 硬化剤：12kg 清　水：1～2L	刷毛 ウールローラー エアレススプレー	1～2	16～168 (7 日) 工程内 4以上	64～80 ㎡/16kg 0.2～0.25kg/㎡

注１　施工用具・条件は代表的なものです。
注２　間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
注３　所要量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい。

● 荷　　姿

下塗材：　水系バリアエポ　　【基材】　NET：　4kg/缶
【硬化剤】　NET：　12kg/缶

成 分 表

●下塗材：　水系バリアエポ

【基　材】

内　　容	重量（%）
弾性エポキシ樹脂エマルション	100.0
計	100.0

【硬化剤】

変性ポリアミン	7.5
白色及び体質顔料	62.7
添加剤	10.7
水	19.1
計	100.0

性 能 試 験 成 績 書

種　　類	水系エポキシ樹脂サーフェーサー（水系白色タイプ）	
製　品　名	水系バリアエポ	
試 供 材 料	水系バリアエポ	
項　　目	規　　定	結　　果
付　着　性	JIS K 5600 付着性（クロスカット法）に準拠	分類0(100/100)
可 と う 性	JIS A 6909 可とう性試験に準拠	合　格
耐　水　性	水中浸漬96時間後、塗面にしわ・膨れ・割れ・剥がれを認めず、つやの減少・くもり・変色の程度が大きくないこと。	合　格
耐アルカリ性	飽和水酸化カルシウム溶液中に48時間浸漬、割れ・膨れ・剥がれ・軟化・溶出がなく、くもり・変色が著しくないこと。	合　格
耐 塩 水 性	３％塩化ナトリウム溶液中に７日間浸して塗膜に剥がれ・割れを認めないこと。	合　格
透　水　性	JIS A 6909 透水試験Ｂ法に準拠	0.1ml

－以下余白－

＊上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではございません。あらかじめご了承下さい。

施工にあたっての要点

●下地

【1】 下地がコンクリート、モルタルの場合は素地の乾燥は十分行ない、含水率 10%以下、pH 10 以下で施工して下さい。

【2】 外部の下地で巣穴、段差などがある場合、セメント系下地調整塗材「ＢＲ＃１５」等で処理して下さい。

【3】 押出成形セメント板、GRC 板などには、下塗材として「キクスイ プライマーＥＰＷ」を使用して下さい。

【4】 ALC パネル、多孔質下地、粗面、その他下地に問題がある場合にはセメント系下地調整塗材「ＢＲ＃１５」等で下地処理を行なって下さい。

【5】 下地のひび割れ、破損、浮きなどはＢＲ工法等で適切な処理をして下さい。

【6】 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工して下さい。

【7】 吸い込みが大きい下地、部分的に下地調整を行なった面が他の面と比べて著しい吸い込み差を生じる下地、並びに下地がケイ酸カルシウム板、スレート板等の場合には適切な下塗材の選択が必要です。

【8】 シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。

●施工

【1】 色・模様の決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。

【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。

【3】 所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の塗付量を守って施工して下さい。

●材料

【1】 材料は直射日光下及び 0°C 以下での保管は避けて下さい。

【2】 溶剤系の製品を取り扱う場合は特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守して下さい。

【3】 施工時は換気を十分行なって下さい。

●工法

1. 材料の取扱い

【1】 製品は使用前に均一にミキサーで混ぜ合わせて下さい。

【2】 希釈の必要な製品は指定の希釈材を使用し適切な量､適切な方法で均一に薄めて下さい。

【3】 2 液形の製品は、主材と硬化剤を指定の比率で調合し、ミキサーで混ぜ合わせて下さい。特に小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。混合後の製品は、可使時間以内に使い切って下さい。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切って下さい。

【4】 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合しないで下さい。

【5】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS（安全データシート、旧ＭＳＤＳ）を参照して下さい。

2. 下塗り

【1】 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付けて下さい。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付して下さい。

3. 主材塗り

【1】 主材塗り見本と同様となるように注意して、施工を行なって下さい。

4. 上塗り

【1】 上塗材は、2 回塗りを標準とし、色むら、だれ、光沢むらのないよう均一に塗り付けて下さい。

【2】 上塗材の希釈率は試験塗りなどにより決定し､それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。希釈率は色相及び施工時の気温により変化します。

5. 施工方法

【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。

●施工管理

【1】 施工場所の気温が 5°C 以下､湿度が 85％以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。

【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。

【3】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度を上昇を防止して下さい。

【4】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。

●その他の注意事項

【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。

【2】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。

【3】 刷毛、ローラー、スプレー等、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。

【4】 軽量モルタル、ALC パネル、高断熱型窯業系サイディング及び発泡ウレタンなどに施工する場合は、蓄熱したり、水の影響や、下地の状態、塗装時の環境など条件により、塗膜の膨れ、はがれなどが生じることがあります。

【5】 JIS A 6909　建築用仕上塗材　複層仕上げ塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS 規格品ではありません。

【6】 艶調整品は被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率により、つやが異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所で艶ムラを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工して下さい。

【7】 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は避けて下さい。

【8】 上塗りに黄色、赤色、青色、緑色系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、あらかじめ隠ぺいの良い共色を塗装して下さい。

【9】 彩度の高い色目は、退色、色むらが早期に生じることがあります。

【10】旧塗膜の種類により、下塗材を選定して下さい。

＊本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。